

176
四日

0433

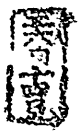


陸軍省第一四八二

第一〇二號



吉



五月

獨逸海底線青島附近要圖送付之件

大正四年五月二十日青島守備軍參謀長淨法寺五郎

陸軍次官大島健一殿

別紙鹵護獨逸海底線青島附近要圖參

考、為及送付候也

進、右原圖ハ獨逸政廳保存書類中ヨリ

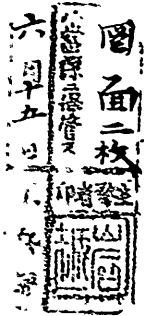
發見セルモノニテ千九百十年十二月二十三日附

青島郵便局長ヨリ海底線保護ニ関

シ各隊ニ通牒方總督ニ上申セル書類

(別紙甲號寫) 附圖トス千九百年

獨逸ノ始メテ當地ニ敷設セルモノハ別紙
 乙號附圖ノ如ク會姓岬ノ北方ニ於テ陸
 揚セルモノ千九百九年一月二十六日附青島
 郵便局長ノ意見具申(別紙乙號寫)
 ニ基キ千九百十年現在ノ如ク改修セリ
 今因(四月十九日)沖繩丸ニテ橋續セル線場
 ハ東經一三八度四八分四五秒北緯三五度
 四三分一五秒(青島ヨリ約三一哩ノ地點ニ
 アリ)



甲 稿

一九一九年一月二十六日付

青島郵便局ヨリ總督府宛文書

郵便局ハ茲ニ同封ヲ以テ當紀；兩海底電線、
 線路変更ノ圖面ヲ送付致候ニ付御調査願
 候郵便局ノ意見ニテハ一九〇九年海底電線上
 陸地奥ヲアウグス、ウイクトリア灣ニ標定セシハ汽船
 航路ヲ顧慮セシニヨルニ其後其航路ハ変更
 セシニ依リ同封圖面上ニ赤キ線ニテ記セシ方向
 ニ海底電線ヲ導クトモ決メテ危險ナラス否難
 クノ点ニ於テ得策ナリト愚考致候此点ニ於テ
 郵便局ハ港務部ノ總督府ニ提出セシ意見

0435

ト同意見ニ候万一陸上防衛必要トナリニ際ニ
 ハ會姓岬堡壘ノ直ク脊後ニ在ル現在ノ海底
 電線所ノ家屋ノ位置ハ甚ク不便ナリ又此處ヨリ
 海濱ニ沿ヒ砲台ノ北方ノ山上ヲ通レル陸上線モ
 戦争ノ際ニハ同ク危険ナリ是レニ依リ現在ノ海
 底電線ノ陸所及同家屋ヲ放棄シ青島灣ノ
 東海岸ニテ海底電線ヲ延長スルハ海底電線
 ヲ安全ニスルノミナラス又總督府ニ於テモ御希望
 アリシカ如ク一方ニ於テ海水浴場海濱ノ美觀
 ヲ増スヘク候若シ計畫ノ通り青島灣ニ海底
 電線ヲ上陸セシムル時ハ海底電線所ノ家屋ヲ

作ル必要ナカラシ然ノミナラス次第ニヨリテハ直ニ
 郵便局内ニ海底電線ヲ道ヲコトモ不可能ニア
 申ラント存候、何レニシテモ「カイセルウヘルヘルム」海岸ハ
 美觀ヲ損スルカ如キコトハナカラシト存候、
 郵便局ハ總督府ニ於テモ本計畫ノ線路変更
 ニ就テハ主義ニ於テハ御異議ナカラシト信ス候間、
 何卒海底電線ヲ延長シ青島灣ニ上陸セ
 るルコトニ御同意被下度候

附圖

郵便局長フィリップ自署

青島 〰〰〰 海底電線現在線路

赤	赤	青
牛	牛	牛
今	新	今
陸	計	陸
上	画	上
線	海	線
	底	
	電	
	線	
	線	
	路	

乙 號 ()

一九一一年十二月二十三日郵便局ヨリ総督府送リ上書

同封ヲ以テ新海底電線ノ青馬真送附シ其間関係諸官
 署部隊其他必要ナル官署ニ新海底電線ノ位置ヲ就テ
 御通知ヒト度特ニ海軍砲兵隊ニ対シテハ射撃練習ノ際
 及ビ目標ヲ曳ク時ニ海底電線ヲ損害ヲ加ヘサル極ク注意
 ヲ夫ヘシ度ル巡洋艦隊ノ方ハ郵便局ヨリ通知致候青馬
 真ニテ示セル如水浅キ処ニアル海底電線保護ノ為メニ筒ノ木板ヲ
 露出シ置キ小其事ハ近日官報及ビ新聞ニ於テ公布致サシム可
 シ其其他海上ニ高ク突出セル礁標等ヲ据作ラカ如キ保護方
 法ハ却テ遠巨商ヨリ海底電線ノ位置ヲ知ラシムル下ニ相成リ

陸上防禦上不得策ト存テ

フリツプ

本月廿三日附新海蔵電線ノ位置ヲ闡スル書面及ヒ青島英受
取申テ矣

第二中隊

陸 軍